

ここが問題！リニア新幹線 号外

2020年12月 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 <http://web-asao.jp/hp/inear>

住宅の真下に巨大トンネルはいらない！

陥没事故はリニアの工事でも

■東京調布市で陥没事故発生、シールドトンネル工事が原因か？



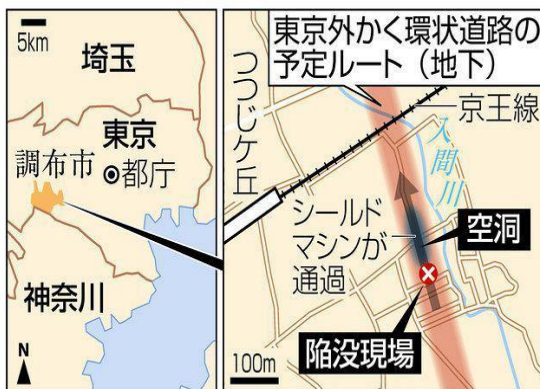
(調布市つつじが丘の陥没現場)

10月18日正午過ぎ、東京・調布市東つつじヶ丘2丁目の住宅街を通る市道（幅員5m）が、長さ5m、幅3m、深さ5mにわたって陥没しました。当日は朝9時半ごろから道路に亀裂が入り地表が沈下しているのを住民が確認しました。

東京外環道事業者の東日本高速道路株式会社（NEXCO東日本）は付近の数世帯に避難を呼びかけ、夕方にはトラックで土砂を現場に運び応急的な穴埋め作業を行いました。また、陥没原因が外環道工事によるものかもしれないとして大深度トンネルの掘削工事を中止しました。

また、陥没事故の2週間後の11月2日、陥没現場から40m北で行われていたボーリング調査で長さ30m、厚さ3m、幅4mの大規模な空洞があることをNEXCO東日本が見つめました。この空洞もシールドマシンによる掘削作業が原因とみられます。

現場の住民からは1か月ほど前から「振動が感じられる」との苦情が寄せられていましたが、そのころに真下で東京外環道の大深度トンネルのシールドマシンによる掘削作業が行われていたことがわかりました。



■横浜市でもトンネルのシールド工事で2度の陥没事故

横浜環状2号線のトンネル工事で、6月12日と30日、2度にわたる道路陥没事故が発生しました。ともに現場の地下では相鉄・東急線を繋ぐための一環であるトンネル掘削工事が行われていました。

大深度地下ではないものの、工事はシールドマシンによる加圧泥水式で進められており、陥没原因は外環道工事と共通する可能性が指摘されています。



(横浜港北区の陥没事故現場)

ストップリニア！訴訟

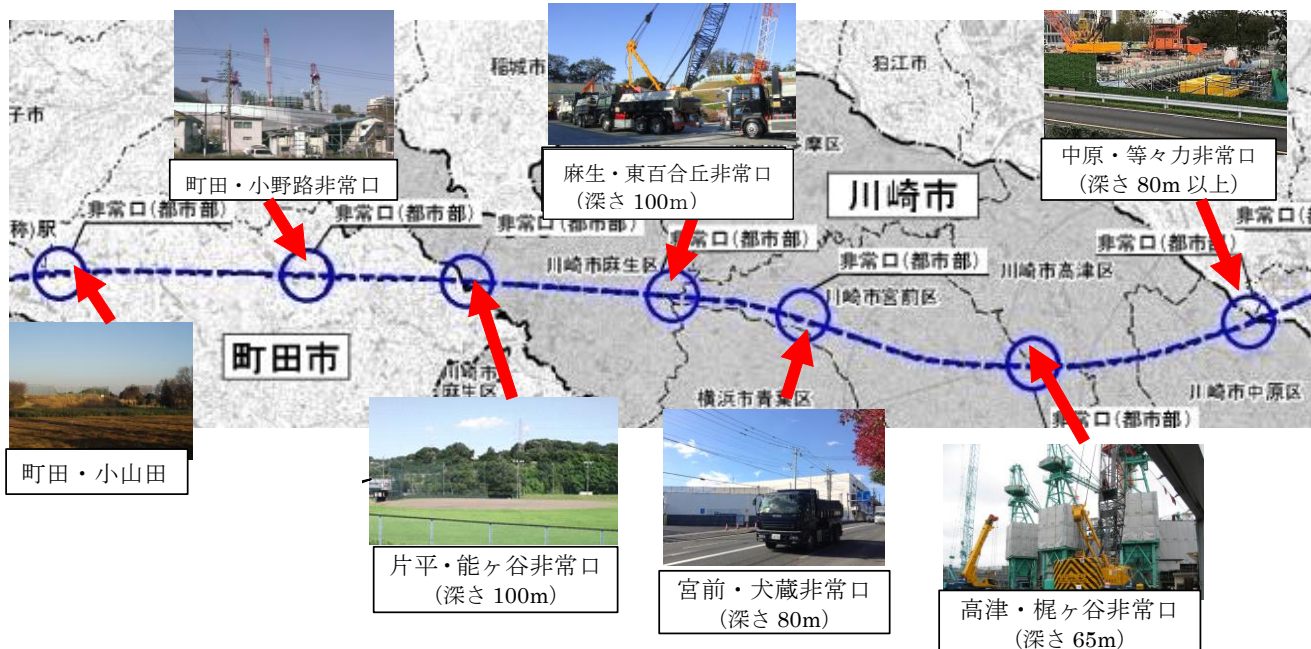
サポーターになりませんか？ 年会費 1000円
Email: stoplinear-tokyokanagawa@gmail.com

非常口の次は大深度トンネル工事が

宅地の陥没、大気汚染、騒音・振動、地価下落は耐えられない

いまなら間に合う、リニア工事中止を！

《川崎・町田市内の非常口と大深度トンネル工事ルート》



■川崎・町田市内では7か所の非常口工事が開始または予定。2021年度からは大深度トンネル工事の一部開始も。

川崎・町田市には駅ができるわけではなく、市民にとってリニアは何のメリット也没有。それ以上に、10年も続く工事期間中は、工事車両による交通渋滞、大気汚染・騒音・振動、大深度トンネル周辺の地価の下落などの生活環境悪化が予測され、東京外環道工事に見られるシールドマシン工事による「致死性気泡」の発生や、土地の陥没など命にかかわる重大な事故の発生さえ危惧されます

■自然と生活を破壊するリニアはいらない！

- ★生産年齢人口（15から65才）の減少は止まらず、リニア利用者は見込めない
- ★コロナ禍で明らかのように、ネット社会で情報交換、テレビ会議も可能で出張の必要が無くなる
- ★品川―名古屋間286キロのほとんどはトンネル→車窓の景色も見えず、旅の楽しみがない
- ★9兆円の建設費の自前調達は困難で早くも国が3兆円の財政投融资、赤字が続けばさらに税金投入も
- ★リニアはルールがなく、既存高速網とのアクセスができなく、乗り換えに想定外の時間も

トンネルを掘るシールドマシン (JR 東海から)



地下には巨大な大深度トンネルが (東京外環道工事から)

